

# マキノ町蛭口宮遺跡出土の「和同開珎」

## 発見された25枚の貨幣

## 和同開珎とは？

## 文字が書かれた土器

マキノ町蛭口から出土したと伝わる和同開珎とそれを納めた土器が、滋賀県立琵琶湖文化館に収蔵されています。土器は、須恵器と呼ばれる硬質の土器で、「杯」と呼ばれています。この椀状の器には蓋が付き、中には「和同開珎」と呼ばれる貨幣が25枚納められています。詳しい出土状況などは不明ですが、昭和32(1957)年より以前に、地元の住民によって発見されたものと伝わっています。

和同開珎は、和銅元(708)年に、日本で初めて作られた流通貨幣と言われ、当時、中国の唐で広く流通していた貨幣の「開元通宝」をモデルにつくられたものです。日本最初の流通貨幣と言われる一方、当時の日本では、米や布をはじめとする物々交換が主流で、税なども物納であったことから、貨幣としてはほとんど流通しないものでした。このことから当時の人々は、宝物として祭祀や呪術などに、この和同開珎を用いることが多かったようです。

蛭口宮遺跡の位置図

25枚の和同開珎と出土した土器

## 蛭口宮遺跡

和同開珎が出土した遺跡の多くは、古代に整備された都と地方を結ぶ官道に沿って分布し、駅家(道に沿って30里毎に整備された施設)や官衙(古代の役所)とよばれる遺跡から出土する傾向が明らかになっています。

平安時代にまとめられた「延喜式」と呼ばれる史料には、古代北陸道は、滋賀郡の「六多」「和邇」、高島郡の「三尾」「鞆結」の4つの駅を経て、越前国に至るとされています。

蛭口宮遺跡は、近江国高島郡鞆結郷に位置し、付近のマキノ町石庭には「鞆結」の小字名などが残ることなどから、古代北陸道に伴う「鞆結駅」の存在が想定されています。25枚の和同開珎は、古代国家の貨幣政策と密接に関連した地域の現象であったことを物語る資料といえます。

文化財課 (25)8559

和同開珎が出土した遺跡の多くは、古代に整備された都と地方を結ぶ官道に沿って分布し、駅家(道に沿って30里毎に整備された施設)や官衙(古代の役所)とよばれる遺跡から出土する傾向が明らかになっています。

皆さん、特集2はご覧いただけましたか？  
そう！市のホームページが10年ぶりにリニューアルします！スマートフォンでも使いやすいようにデザインを刷新！より見やすく、より情報を探しやすい機能がたくさん追加されています！  
特に目玉機能であるトップページのメインビジュアル機能を活用して、市内の魅力あふれる風景を全国に発信していきます！(Y)

## 編集雑感